

令和6年度大分県学力定着状況調査結果について

1 調査について

(1) 実施期日

令和6年4月23日(火)実施

(2) 調査対象学年

小学校第5学年(日田市:438人) 中学校第2学年(日田市:548人)

(3) 調査内容

◇学習到達度調査:小学校第5学年 国語・算数・理科

中学校第2学年 国語・数学・理科・英語・社会

◇質問紙調査:学習に対する意識や生活についての実態等に関する質問紙

(4) 用語の説明

◇偏差値:個人や集団の相対的位置を、50を基準とした指数として表す指標。

2 令和6年度調査結果について(偏差値で表示)

【小学校5年生】

<教科全体>

	国語	算数	理科
日田市	51	52	51
大分県	51	52	52

<知識・活用>

	国語		算数		理科	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
日田市	51	51	52	52	51	52
大分県	51	51	53	52	51	52

【中学校2年生】

<教科全体>

	国語	社会	数学	理科	英語
日田市	51	50	50	49	47
大分県	52	51	51	51	50

<知識・活用>

	国語		社会		数学		理科		英語	
	知識	活用								
日田市	50	51	50	50	50	49	49	49	47	48
大分県	51	51	51	51	51	51	51	50	50	51

3 質問紙調査結果について

(1) 生活習慣・家庭での学習習慣等に関する回答状況 (数値は肯定的回答の割合：%)

【自己認識・社会性等】

質問事項 ※数字)は質問番号	小学校5年生		中学校2年生	
	日田市	大分県	日田市	大分県
40) 自分なりにがんばったことを、先生がみとめてくれて、うれしかったことがありますか	81.8	85.1	75.5	81.6
15) 自分にはいいところがあると思いますか。	74.8	73.1	59.8	68.4
12) 将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか	90.5	89.3	70.0	72.8
77) 学校の授業では、となり同士やグループで話し合ったり、討論したりすることがありますか	86.8	89.3	84.1	89.2
6) 学校のきそくや、クラスで話し合って決めたことを、守っていますか	90.0	91.8	90.9	93.4
9) お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加していますか	77.7	72.2	77.7	68.5
33) クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがありますか ※数値が高いほど、良好な回答。	48.4	47.5	48.4	56.1

【生活習慣・家庭での学習習慣】

質問事項 ※数字)は質問番号	小学校5年生		中学校2年生	
	日田市	大分県	日田市	大分県
2) 朝食は毎日食べていますか	86.8	89.2	84.5	86.8
1) 朝は自分で起きていますか	55.2	60.8	68.0	67.7
71) 学校の授業以外で、週に何日くらい勉強していますか 【4日以上の割合】	51.1	52.9	45.4	57.6
72) 家で勉強するときは、自分で計画を立てていますか	57.5	61.8	45.0	49.2
73) 学校の授業の予習や復習をしていますか 【「いつもしている」「だいたいしている」の割合】	50.5	51.8	35.5	50.9
83) 平日に、どれくらいの時間、テレビや動画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか 【2時間未満の割合】 ※数値が低いほど、たくさん使用している。	34.2	40.3	12.8	21.5

(2) 学習に対する意識等に関する回答状況 (数値は肯定的回答の割合：%)

【教科に関すること】

質問事項	小学校5年生		中学校2年生	
	日田市	大分県	日田市	大分県
国語の勉強はどれくらい好きですか	54.5	49.9	51.5	53.3
国語の勉強はどれくらい分かっていますか	86.8	86.4	80.4	83.4
社会の勉強はどれくらい好きですか	52.9	51.7	51.0	54.1
社会の勉強はどれくらい分かっていますか	79.3	82.8	64.1	67.8
算数・数学の勉強はどれくらい好きですか	56.6	55.2	39.8	49.2
算数・数学の勉強はどれくらい分かっていますか	80.0	81.5	63.2	69.0
理科の勉強はどれくらい好きですか	78.0	70.4	52.8	62.7
理科の勉強はどれくらい分かっていますか	87.5	86.9	67.8	77.7
外国語・英語の勉強はどれくらい好きですか	74.1	65.8	38.7	45.9
英語の勉強はどれくらい分かっていますか			55.2	60.0

【授業での学習状況】

質問事項 ※数字は質問番号	小学校5年生		中学校2年生	
	日田市	大分県	日田市	大分県
45) クラスや友だちの間で、話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか	73.9	70.2	60.7	66.1
21) あなたは、ものごとを最後まであきらめずにやりぬく方ですか	83.2	84.2	72.6	76.1
104) 小学4年生までに(中学1年生のときに)受けた授業の中でめあてや課題が示されていたと思いますか	83.0	82.3	85.7	90.2
105) 小学4年生までに(中学1年生のときに)受けた授業の最後に学習内容のまとめや振り返りを行っていたと思いますか	82.3	81.1	79.5	82.3
106) 小学4年生までに(中学1年生のときに)受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	80.7	78.7	78.3	81.0
107) ICT機器(コンピュータやタブレット、電子黒板やプロジェクタ等)を使ったことにより、興味・関心が高まったり理解が深まったりしたことがありますか	79.5	80.1	72.8	78.3

4 現状と分析について

小学校

<現状>

(1) 結果

○偏差値<全体・知識・活用（3教科9区分）>は、すべて50を上回った。

(2) 成果と課題（全国値との比較）

	成果が見られたもの	課題が見られたもの
国語	<ul style="list-style-type: none"> 連体修飾語 文章を書く（7～9行、2段落構成、考えと理由） 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き 叙述をもとに文章の内容や段落相互の関係を捉える（説明文）
算数	<ul style="list-style-type: none"> 億と兆・がい数の表し方 簡単な場合についての割合 	<ul style="list-style-type: none"> 変わり方調べ（伴って変わる2つの数量の関係を式に表す）
理科	<ul style="list-style-type: none"> 天気のようにすと気温 雨水のゆくえと地面の様子 電気のはたらき 	<ul style="list-style-type: none"> 水のすがた
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 自分にいいところがある 近所の人に会ったときはあいさつをしている 質問や意見を積極的に発言 そうじ当番や係の仕事を担当している 	<ul style="list-style-type: none"> 対人ストレス（不安感） 学校の授業以外の平日の勉強時間 テレビ・動画、インターネット、ゲームの時間

<分析>

○知識、活用ともにすべての教科で偏差値50及び目標値を上回っている。

○1月実施の日田市実施分学力調査で課題が見られた理科については、3学期の補充学習等により改善が見られた。（14校/18校中でアップ、平均1.7ポイント）

○記述による解答形式の正答率が全ての教科で全国値同等もしくは上回っており、各教科で根拠や事例をもとに自分の考えを書く活動や、ペア・少人数で自分の考えを伝え合う活動が、各学校で実践されていると考えられる。

○どの教科も3段階評定の1の割合が県に比べて多く、下位層を引き上げる必要がある。

○家庭での学習習慣に関する質問では、県との比較、昨年度との比較ともに、課題がみられる。家庭と連携して改善を講じる必要がある。

質問事項 ※数字は質問番号	小学校5年生		中学校2年生	
	日田市	大分県	日田市	大分県
71) 学校の授業以外で、週に何日くらい勉強していますか【4日以上の割合】	51.1 (43.0)	52.9 (53.9)	45.4 (48.4)	57.6 (60.9)
83) 平日に、どれくらいの時間、テレビや動画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか【2時間未満の割合】	34.2 (39.8)	40.3 (42.8)	12.8 (19.7)	21.5 (24.0)

※数値が低いほど、たくさん使用している。

※下段の（ ）は令和5年度の数値

中学校

<現状>

(1) 結果

○偏差値<全体・知識・活用（5教科15区分）>は、全体で3教科、国語・社会では3区分全てで50を上回った。

(2) 成果と課題（全国値との比較）

	成果が見られたもの	課題が見られたもの
国語	・書くこと（作文）	・漢字を書く ・部首や故事成語 ・文学的な文章の内容を読み取る
社会	・世界各地の人々の生活と環境	・領海領空、都道府県の名称と位置（地理分野） ・歴史全体的に短答式の問題
数学	・平面図形 ・データの分布の傾向	・1次方程式 ・文字式 ・比例・反比例 ・空間図形
理科	・火山	・気体の性質 ・地震 ・身の回りの物質とその性質 ・水溶液の性質 ・音の性質
英語		・リスニング全般 ・語彙の知識・理解 ・語形・語法の知識理解 ・さまざまな英文の読み取り ・単語並び替えによる英作文 ・場面に応じて書く英作文 ・情報に応じて書く英作文 ・3文以上の英作文
質問紙調査	・挨拶をしている ・地域の行事に参加している。	・つらいことを家の人、友だちに相談できる ・先生から認めてもらえる ・自分にはいいところがある ・いじめを見て聞いて心が痛む ・対人ストレス ・学校以外の勉強時間や日数 ・動画、ゲーム、インターネットの時間

<分析>

○1月実施の日田市実施分学力調査と比較すると、社会、数学に関してわずかだが下降傾向にある。また、理科については、1月実施分より0.1ポイントアップしたものの、今なお課題である。

○英語は、33問中31問で県・全国値を下回っており、深刻な課題ととらえる。特に、「書くこと」の領域において、無回答が県に比べて数値が高い。

○5段階評定の2の割合を県と比べるとどの教科も割合が高く、下位層を引き上げるためにも、「楽しい」「わかる」授業や家庭での学習習慣の改善を必要があると考えられる。

5 今後の取組について

**「学習内容がわかりつつある児童生徒には、ドリルで定着させる。
わかっていない児童生徒には、ドリルではなく理解させるための授業改善。」**

青山学院大学 益川弘如教授の言葉 (2024. 7. 22)

今の日田市の現状から、点数を偏差値50まで上げなければいけないのだが、「点数を上げる」という言葉は実に抽象的である。具体的に何をすればよいのかは、各学校の実態に応じて考えるべきであるが、日田市としては、まずは以下3つの仮説を立て、全校一斉に揃えて実践を重ね、まずは1月日田市実施学力調査で検証する。

(1) 3つの仮説検証の取組

①C児をB児に引き上げることに焦点を当てた授業改善を行えば、全ての児童生徒が「わかった」「できた」と感じるのではないだろうか。

授業改善の再確認…Cの児童生徒をBにする授業ができているか。

具体的には、学力調査で小学校・中学校共に、評定1・2の児童生徒を1段階上げるための授業改善を進める。可能な限り評定3→評定4へ

- (1) 子供の実態を総合的な数値だけでなく、個人を見つめなおす。
 - ・各教科5段階別一覧表を学級ごとに作成し、校内で共有する。
 - ・その学年を指導する教員で一覧を共有し、評定1・2の児童生徒が「わかった」「楽しい」と感じられるような手立てを工夫した授業を行う。
- (2) 個別最適な学びと協働的な学びを適切に使い分けて、「わかる」授業づくりをする。
- (3) 定着状況を把握するための評価や評価問題の実施。振り返りでの把握。
- (4) 定着が不十分な児童生徒には、できる限りの補充学習を行う。(Qubenaの活用)
例：帯時間でQubenaを行い、補充が必要な子供には直接指導を行う。など
- (5) 1月調査では質問調査がないため、学校独自で教科の学習が「好き」「わかる」を把握し、更なる分析・改善を行う。※小5・小6・中2は数値の報告を依頼する。

②組織的・継続的にQubenaに取り組めば、児童生徒の知識技能の力がつくのではないだろうか。

Qubenaでドリル学習を強化することで、知識技能、特に理科・社会の定着を図る。

担任や教科担当任せではなく、学校組織としてQubenaに取り組む。

- (1) 取り組む時間(帯時間・授業開始5分間など)を学校で統一する。
- (2) ワークブック・5分間復習など、何をするかを把握している。
- (3) 家庭学習でも活用し、繰り返し何度も何度も解かせる。
- (4) 自動採点であっても、理解度の見取りは確実にする。

③教科に関する調査及び質問調査の結果から、家庭と連携した取組をすれば、学習への関心が高まるのではないだろうか。

質問調査を含めた調査結果の分析を行い、具体的な対策を作成し、校内で共有する。

前述の「家庭での学習習慣に関する質問」や「家庭でのメディア使用時間に関する質問」の数値が近年変化していることは学力低下の一要因になるのではないかと考える。

- (1) HPへの公開、学校だよりなどを活用し、現状を知らせる。
- (2) 学力向上会議や学校運営協議会での議題に取り上げ、メディアルールを作ったり、家庭学習時間チェックをしたりするなど具体的な対策を講じる。
- (3) 家庭と連携した具体的な取り組みを2学期から強化する。

(2) 各学校による調査結果の分析と具体的な対策の作成及び取組

- ・各学校は8月下旬までに、自校の学校質問調査と児童生徒質問調査及び、日田市分析、国立教育政策研究所の報告書や結果資料を参考に調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしたうえで、授業改善等の具体的な対策を講じ、2学期から取組を始める。

(3) 研究主任会の定期的開催（オンライン）

- ・日田市が目指す組織的な授業改善及び学力調査結果をもとにした授業改善に関する説明を校種別に開催する。
- ・2学期の3つの仮説検証の取組の進捗状況を交流する。

(4) 他市町村に学ぶ取組

- ・参考となる他市の視察に行き、好事例を取り入れる。
教科部会等を通じて共有を行う。

(5) 教科部会で授業改善研修の実施

- ・全教科担当者が参加する場において、大学教授や県の指導主事を招き、授業研究会とは別の研修を実施する。